

JFA 第 43 回全日本 U-12 サッカー選手権大会 参加報告

関西(兵庫県)サッカー協会所属

2 級審判員 佐藤翔太

今回、このような伝統のある大会に推薦して下さった(一社)関西サッカー協会の皆様、日頃から手厚くご指導して下さっている(一社)兵庫県サッカー協会の皆様、そして大会期間中にサポートして下さった皆様に感謝致します。

大会期間中、決勝トーナメントを担当させて頂くことができず、悔しい思いもしましたが、それらも含めて課題点や収穫できた事も多くあり、全国という舞台で味わえた貴重な経験を報告させて頂きます。



～大会について～

大会名・・・JFA 第 43 回全日本 U-12 サッカー選手権大会

日 程・・・12 月 25 日 開会式、リスペクトワークショップ

26 日 1 次ラウンド第 1 戦、第 2 戦

27 日 1 次ラウンド第 3 戦 フレンドリーマッチ ラウンド 16

28 日 準々決勝 準決勝 / マクドナルドフレンドリーカップ

29 日 決勝

概 要・・・日本全国から予選を勝ち抜いた 12 歳以下の各都道府県代表チームが参加し、日本一を決める大会。

～審判研修内容～

【12 月 24 日】

15 : 00	チェックイン
16 : 30	開講式・講義 1
17 : 30	講義 2
18 : 30	夕食
20 : 10	講義 3



15 時に大会を担当する審判員が宿泊するホテルに集まりました。

16 時 30 分からの開校式・講義 1 では、JFA インストラクターの方々から挨拶を頂き、支給品の使用や新リスペクトワッペン取り扱い等について説明して頂きました。

講義 2 ではチーフの高橋武良氏から、大会要項と競技規則改正点を含めた 8 人制サッカー競技規則のお話しをして頂き、大会担当審判員とインストラクターで確認をしました。

夕食後の講義 3 は、JFA インストラクターの山田修平氏が担当され、グループ対抗形式で 8 人制競技規則や大会要項、実践的な審判法のクイズを行い、担当審判員は大会についての理解を深めました。

【12月25日】

6:30	朝食
9:15	フィジカルトレーニング
10:30	プラクティカルトレーニング
14:10	講義5
15:50	グループ別活動
17:00	リスペクトワークショップ
19:00	夕食
20:00	講義7



朝食後、緑地球技場に移動し、参加している全員で集合写真を撮りました。

フィジカルトレーニングはJFAフィジカルコーチの坂本隆史氏、後藤朋巳氏が担当され、始めに筋肉の活性化、可動域を広めるための動きを行い、その後グループに分かれ、グループでのアジリティートレーニングを行いました。

最後にはフィールド全体を使用してのエンデュランストレーニングを行い、翌日からの試合に備えました。

プラクティカルトレーニングでは、3つのセッションが用意され、「オフサイド」、「展開に合わせた動き」、「ペナルティーエリア付近の攻防」をトレーニングしました。3人制審判法で副審が援助するところを1人制審判法では主審1人で監視し判断しなければいけないので、すべてのセッションでポジショニングや角度、体の向きなどを意識し、試合中良い判定ができるようトレーニングに励みました。

講義5は「みる」というテーマで、JFAインストラクターの伊藤力喜雄氏が担当されました。

はじめに審判員で「みる」と読む漢字（見る・視る・監る・観る・看る…など）を発表し、観覧・監視など、出た漢字を組み合わせました。そこから「なにをみるのか」ということについて話していきましました。

まず、右の写真がスクリーンに映し出され、この後どんなことが起こりそうかグループで分析しました。

分析では、「大きくボールが蹴られて展開される」、「アフターファウルが起こる」などの意見が出ました。ここで伊藤氏がポイントとされた点は、「競技者がlook upしている」という部分でした。この時審判員は次の展開に遅れることや、オフサイドの判断を誤ることがあるので、「なに」を「いつ」みれば良いのか話し合い、次のように結論づけました。



「この後どんなことが起こりそうか？」
をグループで分析

みるもの	いつみるのか
自分の位置	常に
守備側競技者の位置	ボールから目が離せる時
攻撃側競技者の位置	ボールから目が離せる時
ボールの位置とボールホルダーの状況	常に
スペース	ボールから目が離せる時

このように分析を常に行い、上記の表のようにみることで、予測を立て、良い判定のためのポジションに移動できると学びました。

その後、参加チームと初めて接する「リスペクトワークショップ」に参加しました。

この場では、リスペクトについてチームや立場の壁を越えて話し合い、良い競技者となるための「リスペクト精神」の理解をお互いに深めました。

【12月26日】

6:30	朝食	
8:30	試合担当	① 東出雲 FC — 田宮ビクトリーSS 補助審判
		② フォルトゥナ — FC 湖北 主審
		③ 鳥取 KFC — グロース FC 補助審判
17:00	グループ活動	
18:20	夕食	
19:30	技術と審判の協調	
20:30	講義 9	

試合会場の鹿児島ふれあいスポーツランドに到着し、各ピッチ、担当審判員とインストラクターでフィールドインスペクションを行い試合に臨みました。

この日は主審を1試合、補助審判を2試合担当させて頂きました。

技術と審判の協調では、JFA 技術委員の方が担当され、今の世界のサッカーの流れや、日本代表が世界で活躍するために必要なことを学ばせて頂き、そのために審判員として「何ができるのか」、「何をしなければいけないのか」を考え、共有しました。



【12月27日】

6:30	朝食	
8:30	試合担当	① デサフィーゴ波佐見 FC — 松本山雅 FC 補助審判
		② 大山田 SSS — アビスパ福岡 主審
		③ FC アスルクラロ高知 — レノエンスナガサキ FC 主審
17:00	グループ活動	
18:20	夕食	
19:30	講義 11	

この日は主審を2試合（予選1試合、フレンドリーマッチ1試合）、補助審判を1試合担当させて頂きました。

講義11では、審判委員長の小川佳実氏がお話しをしてくださりました。競技規則が改正され、通達にあった「ゴールキーパーの飛び出しがキッカーに影響が無く、キッカーのミスでボールがゴールの枠を外れたあるいはボールがポスト等に当たって得点にならなかった場合の解釈」の映像を用いて全員で考え、通達の奥にある「サッカーの理解」の部分を深めました。そこから「競技規則の精神」について考え、競技者のために努力することを理解することができました。その中でも小川氏の「自分の成長や目的のために、目の前の試合を踏み台にするようなことはしないでほしい」という言葉が深く心に残っており、競技者が最大限の力を発揮するために自分たちがサポートするのだと改めて強く感じました。

【12月28日】

6:30	朝食	
8:30	試合担当	マクドナルドフレンドリーカップ
14:00	観戦研修	準決勝
18:20	夕食	
19:30	講義 13	
20:30	懇親会	

この日はマクドナルドフレンドリーカップの主審を2試合、補助審判を2試合担当させて頂きました。

午後の観戦研修では、同年代の審判員が担当している試合を全員で観戦し、その場で判定や動き、ポジショニングについて話し、多くの意見を聞くことで色々な考えを学ぶことができました。

準決勝を担当した審判員から多くの学ぶべきことがあり、今後の審判に活かそうと思いました。



【12月29日】

6:30	朝食	
8:30	観戦研修	決勝
11:00	閉講式	

大会最終日を迎え、決勝戦が行われました。

前日同様、審判員全員で試合を観戦し、話し合いました。試合はパディーFCが3-1で柏レイソルに勝利し優勝となりました。



大会を通して、試合終了後に両チームの選手がお互いをたたえるなど、リスペクトあふれる大会になったと感じました。

閉講式ではJFA専務理事の須原清貴氏より、今大会が成功に終わったこと、審判のことについてお話を頂きました。特に審判についてのお話で、「プレイヤーをやめないこと」、「審判中心で仕事を選択しないこと」を守ってほしいとおっしゃられており、自分自身、審判を中心に物事を考えている部分が多くあったので、すべてを充実できるように努力したいと思いました。

最後にチーフの高橋武良氏から挨拶を頂きました。お話しの中に、「ホテルでの生活は完璧だったのか」ということに触れられており、そこをもっと改善すべきだとおっしゃられていました。自分は就寝時間や生活を管理していたのですが、審判員として全体を見られる立場なので、もっと周りにも気を配れるようにならなければいけないと学びました。

～試合を担当して～

初日に担当させて頂いた試合では、自分の背後に大きく展開されたときにオフサイドの判断ができなくなることや、視野外でファウルの見落とすことを防ぐため、広い視野でプレーを監視するよう心がけて試合を担当したのですが、その結果争点からの距離が離れ、判定基準のブレや、試合とマッチしないレフェリングとなってしまいました。

2日目は初日の反省を活かし、争点に寄る場面と、離れて次の展開にあわせて動く部分ことや、細かい微調整をすることを意識し、初日の課題を改善できました。次に出た課題は、オフサイドの説得力という点で、オフサイドという判定はトレーニングをしてくださったおかげで、高い精度で判定できたのですが、競技者が納得しない場面が多くあり、どのようにすればより説得力を持たせることができるのかというものでした。インストラクターの方と話し合った結果、「オフサイドの意識と、優先順位を付けて、オフサイドの優先順位が高かった場合にオフサイドラインに正対して判断する」という結論を出し、次の試合で挑戦し、少しずつ改善することができました。

3 日目はフレンドリーカップということもあり、「競技者が楽しくサッカーできるために」という目標を持って試合に臨みました。特に意識したのは、「先取りの行動」と「声かけの仕方」です。いつもよりこの 2 点を丁寧に言い、主審の都合で無駄に浪費してしまう時間をできる限り減らすようにし、選手の意図をくみ取ることやポジティブな声かけをすることで、楽しく競技者がプレーできていました。このことは、今までの自分では余裕がなく、焦ってしまいできていない部分だったので、大きく成長できた部分ではないかと思います。

～研修会に参加して～

今回研修会に参加させて頂いて、自分の地域で活動しているだけじゃ関われないような同年代の審判員やインストラクターの方々と出会えたことや、その方々と関わったことは自分にとってとても貴重な経験になりましたし、ここまで実りのある研修会になったのも関わってくださった皆さんのおかげだと感謝しています。

この研修会で得た知識や経験を自分のものだけにするのではなく、地元の関西、兵庫県、明石市に還元することが参加させて頂いた責任だと思っています。

今後自分が成長していけるように、この研修会で得たものを力にし、またこのような素晴らしい研修会に参加させて頂くためにも、日頃から努力を積み重ね、毎試合、競技者のために全力を尽くして頑張っていきますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

集合写真



関西から参加した 4 名

中村正光インストラクター(兵庫)

佐藤翔太(兵庫)

池田武蔵氏(滋賀)

多喜功氏(京都)

